

No. 7

1986

8月1日発行

萩の郷

発 行 者
下 市 田 区

発行責任者
下 井 武 平

印 刷 者
飯田共同印刷㈱



市田港を発して惣兵衛堤防
に続く河岸、下市田河原の広
大な田園地帯の一部に、現在
先端企業の集積化が急がれて
いる。

自然への郷愁の中で、わが
故郷は時代とともに大きく様
変わりしようとしている。

各地から集い来る舟人達に、
誇り得る圏域造りが大いに期
待されている。

最近の下市田の情勢について

町を挙げての大事業である下市田工業団地進出第一号の旭松(株)の起工式が、七月十八日十時より現地で行われ、また町主催の式典が午後五時三十分より下市田公民館にて開かれました。町の為に下市田区の為に、この工業団地の成功を祈ります。

す。関係地権者及び地元の皆様の御協力をお願いいたします。

下市田区内の各種工事及び消防施設等についての区の補助規定が制定されました。部落長さん、各委員の皆様と御相談のうえ、規定の有効活用を願います。

七月三日、第三回目の高裁が開廷され、今回は西沢弁護士一人出廷され、その報告会が八月八日に高森町役場にて関係者を集めて開かれます。

公民館及び高寿館、三区会所の建物に対する消防署よりの「消防施設に対する指示」があり、代議員会、高寿会及び三区の部落長さん等と協議し、善処を検討しています。

町の補助を頂いて、元便所を事務室に改造しました。当面、区と公民館の事務所に活用します。

日赤奉仕団の皆様は公民館の座ぶとんカバーの洗濯をしていただきました。奉仕団の皆様ありがとうございました。

昭和61年度 下市田区一般会計歳入歳出予算

昭和61年3月27日 議決

1. 収入の部

2. 支出の部

単位 千円

区 分	本年度予算額	前年度予算比較	区 分	本年度予算額	前年度予算比較
1. 区 費	8,900	200	1. 総 務 費	11,771	4,688
2. 繰 入 金	11,320	7,481	2. 厚 生 費	683	△ 40
3. 町 支 出 金	2,223	723	3. 区 有 地 費	1,390	50
4. 財 産 収 入	1,000	0	4. 土 木 費	4,632	2,010
5. 寄 付 金	500	0	5. 水 利 費	2,605	1,100
6. 繰 越 金	500	△ 96	6. 消 防 費	978	450
7. 諸 収 入	800	0	7. 公 民 館 費	2,384	250
			8. 予 備 費	800	△ 200
合 計	25,243	8,308	合 計	25,243	8,308

昭和60年度 下市田区一般会計報告

(自 昭和60年4月1日～至 昭和61年3月31日)

1. 収入の部

2. 支出の部

区 分	予 算 額	既収入額	残 額	区 分	予 算 額	既支出額	残 額
1. 区 費	8,700 ^円	8,738,000 ^円	△ 38,000 ^円	1. 総 務 費	7,083 ^円	9,938,449 ^円	△ 2,855,449 ^円
2. 繰入金	3,839	3,164,010	674,990	2. 厚 生 費	723	754,547	△ 31,547
3. 町支出金	1,500	6,456,856	△ 4,956,856	3. 区有地費	1,340	1,091,850	248,150
4. 財産収入	1,000	1,312,700	△ 312,700	4. 土 木 費	2,622	2,092,447	529,553
5. 寄付金	500	0	500,000	5. 水 利 費	1,505	2,018,855	△ 513,855
6. 繰越金	596	1,035,989	△ 439,989	6. 消 防 費	528	345,666	182,334
7. 諸収入	800	1,412,293	△ 612,293	7. 公民館費	2,134	2,134,000	0
				8. 予 備 費	1,000	0	1,000,000
合 計	16,935	22,119,848	△ 5,184,848	合 計	16,935	18,375,814	△ 1,440,814

差 引 残 高

既収入総額	22,119,848円
既支出総額	18,375,814
残 高	3,744,034

下市田区の 区、常会について(一)

田戸純市

下市田区は白河藩領市田陣屋支配の頃も大村で、ずっと後の明治二十二年六村合併市田村になったとき、旧下市田村がその儘下市田区になって今日に至っている。大村であったが故に区別を五つにして自治を行って来たものと思われる。

近代になって現在の出砂原地区を二区から分離して六区としたものと推測する。ちなみに一区の戸数は牛牧と出原を合せたものと対し、三区は上市田区と同じ、六

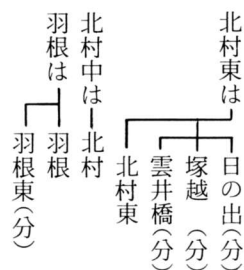
戦前は 区は大島山と出原を合わせたものに匹敵する。又四区は出原より戸数が多い。如何に大区であるか思い知らされる。混住化が急速に進行する中で、ますます戸数人口の増加は更に大区に至らしめることであろう。また新しく転入居住される方は、区別、常会別の区分け、配列など判らないことも多いと思うので、三回に分けて掲載することにする。

一区は元は日影、北村、唐沢、羽根に大別されていたようである。三六年の大災害を機に常会の分割、改

と呼び、実行組合活動が盛んで、稲作、養蚕の技術研究を行なったものである。又区によっては若い者が集って墓細工などしたこともあったようである。今二区と三区にその名残りが常会の名に付けられていて懐しい。其、力はそれぞれである。区別に略図を示せば次の通りである。

- 一区 || 積善会
- 二区 || 共励会
- 三区 || 力行会
- 四区 || 漸進会
- 五区 || 双葉会

変がしばしば行われ、細分化し、更に戸数の増加に伴い新設常会の誕生が見られて、今日に至った。その二・三例をあげると



右に常会の配列略図を掲げて見る。尚この他にアパート、教員住宅などあるが省略する。

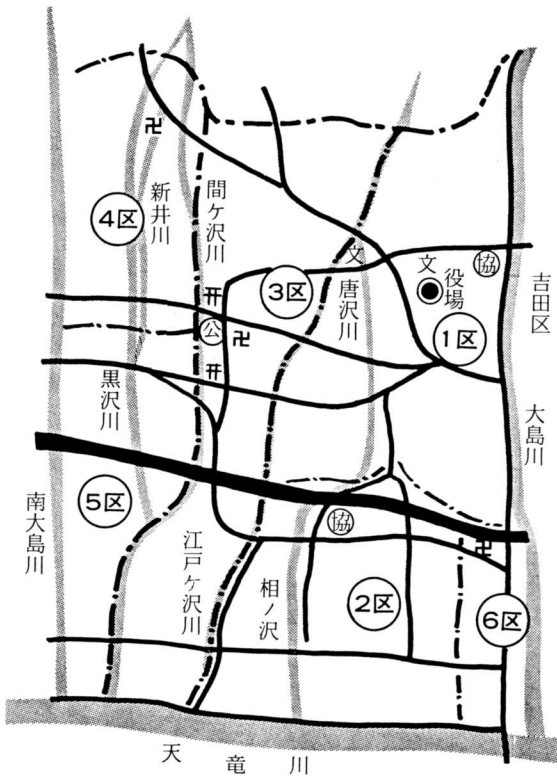
昭和60年度 下市田区特別会計報告

単位 円

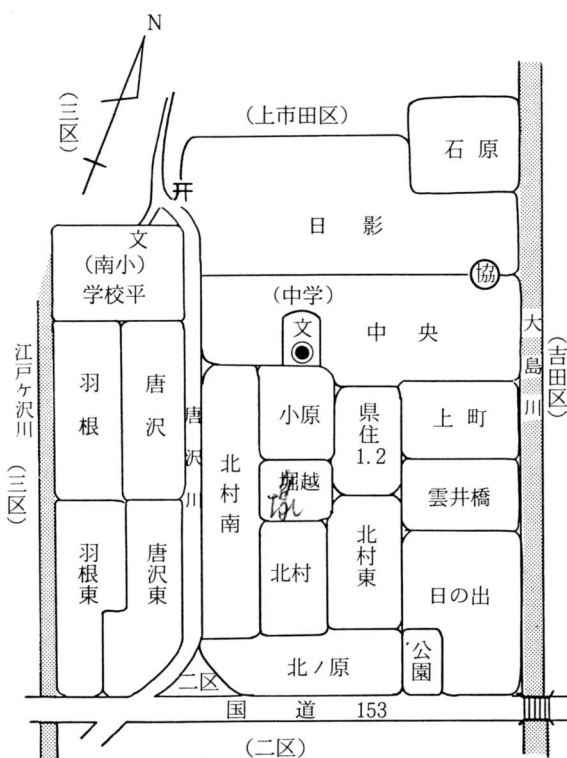
	収 入	支 出	残 額
基 本 金	31,888,289	6,599,819	25,288,470
営 繕 積 立 金	314,268	0	314,268
消 防 義 務 金	2,874,292	1,107,058	1,767,234
特 別 会 計	5,484,411	4,381,460	1,102,951
葬 具 会 計	120,456	0	120,456
道 路 改 良 基 金	4,617,356	1,825,558	2,791,798
間 ヶ 沢 水 原	812,178	0	812,178

収入の中には前年度繰越を含む。

下市田区分略図



下市田一区常会配列略図



萩山神社ものがたり

(7)

— 御射山の祭事について —

伊谷唯介



萩山神社の社務所の北側から裏山の細道を登ること約十分にして広大な台地角田原へ出る。

遥かに東方赤石の魏々たる山並を仰ぎ、足下に天竜の清流南へ流れるを望み、遠く山吹方面から吉田を経て下市田の大部分を一望の中に治め、翻って眼を転ずれば背後に吉田山とその裾野に展開する牛牧・上市田などを瞥見し、西方、指呼の間にうっ蒼たる森を見るこれ即ち御射山の森である。あたりはすっかり開墾されて一面の果樹園その他の畑であり人呼んで原畑と言う。最近県の蚕業試験場が座光寺から移転して来てこの森と境を接している。因みにこの境内の広さは一二〇四㎡でほとんど真四角に

近い形をしている。

さて、この御射山の祭事であるが、それは誠に特殊な祭である。萩山神社ものがたりの(1)でも書いたことであるが、そもそも当萩山神社は松岡氏四代の松岡帯刀が今から約八〇〇年前の寿永二年にこの郷の産土様として諏訪から勤請してきて、松岡氏の武運長久と領内の平穏を祈念したのであり、従って御射山のことも自ら諏訪大社にての起源があり、その故事に則ったものであろうことが想像される。

諏訪大社の由緒略誌によると、上社の御射山社は八ヶ岳の山麓にあり、下社のそれは江戸初期に八島高原から秋宮東北五キロ程の山に移された。青萱の穂で

飯屋を営き神官を始め関係の者がそこへ参籠して祭事を行うので穂屋祭とも言ったとある。

また、鎌倉幕府は全国の武將をこの祭事に参列させ八島高原や霧が峰一帯で武芸を競わせて祭事を賑わさせた。また参加した武將は諏訪大社の御分霊を拝戴してそれぞれの任地へ帰り御分社を奉斎した。現在諏訪大社系統の分社は全国に五四九二社ありと言われているがこのような事情によって分社して奉斎されたものも多かるうと推察される。

前書きが少し長すぎたようであるが当萩山神社の御射山の祭事について記す。今迄幾度か触れたように当神社が諏訪大社の分社であるから、御射山の御祭事も前記のようにその故事に則って始まったであろうことははゞ間違いないところであろう。

前記でもわかるようにこれは誠に特殊な祭事であって、純然たる狩猟神事で狩猟そのものが主に祭儀であった。昔の祭事の詳しい模様はわからないが、祭の日には市田郷内はもちろん山吹の諸武士もことごとく萩

山神社に参集して祭儀を執行し、所謂松岡八十騎の面々が馬上豊かに騎馬道を馳せて御射山に向い、神の狩猟地に着いた騎馬武者は矢叫び雄々しく鳥獣を狩りたてその獲物を新しく薄の穂で葺いた社前に供えたという。これが御射山の神事であったのである。

萩山神社由緒録には「御射山祭の復興」として次のように記されている。即ち「萩山神社附属の御射山の御儀古来より特殊神事として踏襲し来りしも明治維新以来漸く廃れんとするを憂え明治十四辛巳年生れのもの一同相謀り之を復興せしめ神社の尊厳を保たしめんものと区別を確立し柵を結び松二百本を植え……云々」とあり奉仕者明治辛巳(四十四年)十六名の名が記されている。これらの人達はその後十五年の永きに涉って奉仕した奇特の行為が時の神社協会下伊那支部長から表彰されている。

このあと、明治三十九年丙午生同年の人達十三名が後を継いで昭和四十年頃迄奉仕されたのである。

現在のは区内の常会長さんが当番制によって奉仕し秋祭の夕祭の日(九月二十

八日)に現地へ出向き、境内の草刈を始め神域を整備し、昨年度の古い穂屋を徹去して新しく丸太・萩・薄などを調達して、旧制によって穂屋を新築し、中央に白砂を盛って幣束を立て、献餅物を供えて祭儀をとり行っている。

コミュニティ講演会開催される

講師 大沢 茂男さん

下市田区と公民館では去る七月十三日(日)夜大沢茂男氏を招き「ヒマラヤに賭ける青春」と題してのコミュニティ講演会を開催した。当夜は心配された雨もあり一五〇名余の区民を前に苦難の中での生い立ち、プールの自宅へ造ったの通年トレーニングから七つの海や連続七回のエベレスト氷河湖泳ぎへの挑戦、標高三千米のエベレスト街道沿いヘリンゴを食らせ桜を植えた体験からの話またネパールの風情、カトマンズ等の様子を語られ「夢とロマンの挑戦人生」で多くの聴衆



あやめ一番

小島正美さん(四区)

私が二十五才ころから四十才ころまで十五年ほどは盆栽がすきで、随分鉢植物を買って来ては楽しんだものでした。但し管理がきろい、といっても百姓が忙しくて、管理が出来なかつたことが本音だったのです。それでも見るとほしくないので買ってくるが、一年経つと枯れて、盆裁だといったら、顔写真と話したことが出て



です。それでも中日新聞社の記者から、趣味はと聞かれて、盆裁だといったら、顔写真と話したことが出て

私は下市田一番です

弓道において、錬士五段の資格を取られたという、棚田頼さんをお宅におじゃまして、お話を伺いました。

いつ頃から始められましたか？

十三年程前の四十八年で四十五、六歳の頃であったと思う。現在、昭和五十五年の五十六歳である。

弓道一番

棚田 頼さん(五区)



この記録は現在まだ破られて

そのきっかけは？

年をとってから、無趣味な生き方でなく何か持ちたいが、それには、一人でできてしかも体力がおちても続けられそうなものが弓道ではないかと考えた。飯田市営道場へ見に行つてからやりたいと思い、親戚の紹介を経て、市岡針灸院の市岡永吉師に出会い、基礎から手ほどきを受けることになった。

思い出に残る大会は？
第十二回北信越弓道選手権大会で、団体優勝、個人二位になったこと。

松川長光寺、百射会において的中率が、75100であったこと。

また棚田頼さんは、叔父に故棚田泰生画伯を持ち、絵にも造詣の深い方である。

(取材 原・北林)

びつくりしたことがあります。そのうちに管理が大変なので、買って来る、眺める、枯れない内に地へ降す、彼方此方へ植えたのが今庭にある青木は全てそうです。よい記念になりました。

その中で今、池の上から前畑に続いて大きな棚を作つて、毎年ピンクの花を咲してくれる藤があり、一本ですが、二十五坪位の広さで二十五年になります。五月になると目を楽しませてくれます。

道楽は色々ありますが、ただ今夢中といえばアヤメ

いない。

今後希望することは？

弓道の究極目的は真善美であつてあたりではない。下市田にも弓道愛好者が少ないので、弓道でお金のかからない健康づくりができる位に軽く考えて、やってみたい人はぜひ連絡してほしいと思つてゐる。

また棚田頼さんは、叔父に故棚田泰生画伯を持ち、絵にも造詣の深い方である。

(取材 原・北林)

付けて、これから秋にかけてコスモス街道も五年ほどになります。今年も花が咲くことでしょう。

付け加えて紹介しますがアヤメの田、下の田、横の田は蛸も沢山飛び交つておりますよ。(本人記)

クラブ紹介

(7)

下市田

大正琴研究会

村松 登美子

発足は、飯伊地方でも最初に誕生したグループでしたが、会員の減少で、一時休会してしまつた。佐々木先生のお骨折りで、新しいメンバーで、一昨年の秋産れ変わることができました。まだ一歳半のよちよち歩きです。

また、毎年春に町の福祉センターで行われる、佐々木、小島両先生の教室の会員百十数人が一堂に会しての「大正琴フェスティバル」に二回参加させていただいたことは、同じ趣味をもつ方々とのふれ合いの場というばかりでなく、未熟な私たちに与つては、いろいろ教えられ、グループの向上のためにも有意義なことだとよくこんでいます。

現在、メンバーは総勢十五名、うち佐々木先生他二人の男性は、いずれも大正琴のキャリアがながく、練習の折には、いつも熱心にわかりやすく指導くださるよい方ばかりで、私たち女性はいへんありがたいことだと思つてゐます。

おかげさまで、今では、レパートリーも五曲ほどで

き、ベテランの方々にさええられて、高森有線でも二回放送することができ、はげしい演奏ながら、ちよっぴりうれしさを味わうことができました。

史跡めぐりシリーズ(7)

流田の薬師堂

福島 光三郎

下市田の流田、福島幸雄さんの屋敷つき、西南のところに、昔、薬師堂があった。そういつても信じるひともないだろうが――。

そのことは町史の社寺関係の部にも欠落している。

併し、天文年間に発刊された伊奈温知集、関盛胤編集の伊那神社仏閣記には、安養寺の欄に流田の薬師堂の名が出て居り、二百年以前に実在して居たことを物語っている。

その昔より明治の初年まで、近隣の人々は勿論、天竜川を隔てた伴野あたりの人々の信仰の対象として尊崇されていた。

ところが、明治六年の上沼弥蔵(あめやの先代)の日記によると、その年の四月三日の記録には、下市田村として、『流田の薬師堂をとり払うため四月二十六日入札する』こととなつたと書かれている。

明治四年の寺社領没収のお触れや、その頃の社会の風潮であった排仏毀釈の思想から、そうした成行きと

なつて、昔からの流田の薬師堂は取払われたものと思われる。

今から数えてちょうど八十九年前のことである。

安養寺の過去帳によると最初の堂守りは、心如大徳と言ふ人で、宝暦十一年(一七六二)に亡くなつて以来、こゝに住んだ首座、



禅音、沙弥等々の人々が八体の大小の卵塔として、安養寺の墓地にはいった右手の一隅にあり他の石碑もここにある。

寺の過去帳に、『流田の薬師堂に住す』とある黄山知葉比久尼が、残したという弘法大師の座像―高さ三〇センチ―が流田にあり、

その裏書に、武州江戸から来た松之進、松美女の廻国の六部が奉納するとある。

この像には文政二年とあるが、それより五年後の文政七年に再度、流田の薬師

堂を参つたと記録されている。このことから随分御利益のあらたかなお薬師様であつたことがわかる。

現在、本尊であつた薬師如来座像は―高さ三十四センチ―おさやに納められて流田に安置されている。

薬師堂は、はじめ流田の東南三十メートルの地点、段丘の上にあつたといわれるが、安永年間(一七七七)にお堂の下近く流れていた天竜川が氾濫して崖崩れがあり流失の危険があつたため、流田の西南の屋敷つづきの一畝二十歩の地に移したものだといふ。

約二百年に亘つて流田の薬師如来は、この地方の庶民の信仰の対象として守りつゞけられていた。

このお堂を保持した堂守又は薬師坊、比久尼は、信仰心の厚い流田一家又は、近隣の暖かい被護のうちに念仏三昧の生活を送り迎えていたものと思われる。

夜が明ければ、この堂守りの人は、托鉢に出たであろうし、雨の日は訪れる近隣の人たちとお茶を汲み交したと考えられる。

そのお堂は、日常生活にことかかぬ程度の広さで、仏壇、仏間、居間、いろいろ

のある台所、土間などで、少くとも十坪位はあつたと思う。

日常生活に欠かせない主食の米麦等は、仏家から届けられたもの、托鉢で得たもので十分であつても、薪炭、みそ、しょうゆなどは、近隣の人たちの善意、好意により何ら不自由のない生活が送られたと思われる。

お堂の辺りには樹木も立っていたであろうし、裏手には羽根からの綺麗な清水が流れて良い環境をかたちづくっていたと思う。

お堂の前の庭の隅には馬頭観音の石塔がいくつかあつたらしく、その一部が移動され現在、羽場坂の一角に立っている。

このお堂が廃棄されることとなつた時、本堂以外の脇侍である十二神将などは安養寺へ移し、現在は寺の十王堂に合併されている。

薬師堂のあつたところはいまは素畑となつている。

古くからの由緒のあるお堂の跡であるから、ささやかなもので良い、何かの標しきでも立てたいものである。

尚、川向うの伴野との道路の関係であるが、下市田村からの船渡道は、上手よ

セブンフラワー

四区 木村美鈴

私達お生花グループの出用足のしにも計画し、又何来たのは、昭和五十三年正月用の、お花を教えていただいたのが始めだった様に思います。メンバーは、部落のママさんバレーをしていた同年代の七名です。グループの名前も名付けて「セブンフラワー」と、現代的な名前を付けました。私達の部落出身の、古流宮島勝子先生をお願いしました。先生も大恋心やすく教えて下さいます。毎月一回最終木曜日の夜、改善センターをお借りします。先生の都合、皆の都合に合せて、曜日もぐるる時もあります。お花の材料は皆の希望を聞いて、先生が花屋さんに注文して下さいます。

グループも、当番せいで会場の準備をして、いたって気軽に楽しい会です。会費の残りを少しづつ貯金をして、忘年会、新年会の費



(附記)

薬師如来は、古くから信仰をあつめた仏である。

衆生の人格を高め、衣食住を豊かにし、病苦、災禍

(次面下段につづく)

奥の細道紀行

一区 中村 藤雄

六月二十七日午後教育長等すべてを見学。車は更に藤松さん、前町公民館長二木さんをリーダーとする一行十八名はあこがれの仙台青葉域に立つ。広瀬川を眺める台上に土井晩翠の書で名曲「荒城の月」が銅板に刻まれておる。誰ともなく中村さん、歌って!! に触発されて「春高樓の花の宴」とスタートした。音程も運良く高からず、低からず、うまく滑り出したので、声一杯に、しかも本物の歌碑の前で、今歌っておる、という感激、それこそ我と我が声に酔って歌い進む。もう全員の大合唱となった。胸つまり、涙流しての合唱斉唱「あ、荒城の夜半の月」と歌い終った時、周囲にいた観光客も一緒に歌っていた、「荒城の月」ゆかりの地での熱唱!! 何とも嬉しかった。

役場青年職員本島義文君運転のマイクロは、八〇〇Kmを走って夕刻花巻温泉へ到着。二十八日は朝五時半に宿を出て詩人高村光太郎山荘へ。続いて花巻郊外の故宮沢賢治の記念碑、生家

夏の夕べ

平和行進に思う

五区 宮下 正實

七月九日の夜八時から九時まで、元善光寺から市田駅前まで、百数十名と共に歩いた。

今年もまた平和行進に参加する事ができた、という喜びを感じながら歩いた。ここ数年來、毎年この時期になると歩いて来た行進である。

平和行進なんて、と思うかも知れないが、少なくとも私はそうは思わない。

先日の同日選挙という国民をベテンにかけた選挙で、某軍団が増大した。その動きが、軍靴の響きの近づく

毛越寺を心ゆく迄見学。折しもNHK放送の義経・弁慶のその昔を忍ぶ。「奥州磐井郡中村の里」遠く八〇〇年昔安信貞任家臣としてこの地に住した。という先祖を忍び、いつの日か訪ねたいと、熱い思いにかられた。それは一ノ関西方磐井川のあたりか!!

そして松島へ。この古刹瑞巖寺は京都妙心寺関係の臨濟宗なる事を知り親しみを覚えた。多賀城へ!! 千

二百年昔の蝦夷防衛の古城坂上田村鷹も陣した事ありと。夜は福島郊外の飯坂温泉泊り。

二十九日朝六時出発、義経の忠臣佐藤忠信継信ゆかりの医王寺。信夫山麓の文知摺を見学。NHKはねこんまの舞台となっている二本松へ。高村光太郎・千恵子のすべてを見学。千恵子が涙して眺めた安達太郎も眼前にした。二泊三日二〇〇Kmに近い「奥の細道」

の旅を終え東信の内山峠回りで長野県へ入り夜九時郷里へ帰着した。平安無事の旅なり。

(歌曲)「荒城の月」奥の細道「北上夜曲」千恵子抄「千曲川旅情の詩」青葉城恋唄」を心行く迄歌い合って楽しき限りの歴史探訪の旅であった。

(六面下段よりつづく)
を除くなど、十二の誓願をたてた仏だが、その第七の一切衆生の衆病をのぞき、心身を安楽にして悟りを開かしめるという願にもとづいて薬師如来と名づけられたという。

手に、地球の存亡がかかっている、ともいえるのが今日の世界の核情勢でもある。こうした中で、一人一人が確かな手応えとして、平和をつくりだすことに、どのように寄与するか、という問題を問いかけた時、ためらわず、自分の意志表示の

の一つとして、平和行進があるのではないだろうか。平和行進は、天気にも恵まれ、実にさわやかなものであった。また昨年よりも一層参加者数も増えた事も今年の特色であった。

大きくしていかなくてはならない、大切なものと思っ

社会教育

地区コミュニティ指導員就任にあたって



松岡 泉 岳

この度、町の(下市田地区)社会教育と、コミュニティ

ティ活動の仕事に携わることとなりました。若輩者が雲をつかむような仕事を受けてしまった気がします。

社会教育は、主として青少年と成人の組織的な文化活動(教育)といわれます(八面下段へつづく)

小中学生の作文

興福寺をみて

六区 中垣 裕彦

4月10・11・12日は、高森中学校3年生の修学旅行の日だった。その中で、とても印象深いのは、10日に見た、興福寺国宝館だった。その中で、いいなあと考えた像はたくさんあったけれど阿修羅立像・竜灯鬼・金剛力士像だった。阿修羅は3つの顔と6本の手を持った像だった。その顔は、少年のような感じだった。特にその顔が目がよかった。何か遠い所を、じっと見つめている感じだった。

竜灯鬼は、首に竜をまきつけていて、筋肉が隆々としていた。修学旅行に行く前に、資料などで見た時には、大きい仏像だなあと感じていたけれど、実際に見て驚いた。実際の大きさは、手に乗るぐらいの大きさだった。目玉は上を向いていて、両手は前で組んでいて、とてもおもしろい像だった。何か、「鬼」という感じがしなかった。

金剛力士像は、口を閉じている卍形と、口を開けて

いる阿形があった。卍形は血管とかも浮き出ている迫力があって、迫力がいけば、阿形の方が上だったと思う。顔をしかめていて腕のあたりは特に筋肉がすごかった。体の角度は、いまにも向かってきそうな感じで、けんかをしたら、すぐ勝負ありといった感じだった。ぼくは、この像を見て、おもわずのけぞってしまっていた。

月見の会

三区 吉田 憲司

興福寺の他にもよかった所がたくさんあり、楽しい修学旅行だった。また家族でも行きたいと思った。

中学生になって

三区 桑田 茂

アイヤーストームです。点火する人は四人で、ぼくは点火する人でした。火の周りでクラスごとに、歌やえんそうを、発表しました。その後、ジェンカとマイムマイムをおどりました。おどりが終わると、ちょうど月が出てきました。だいたい二分間で、山から出ました。毛ふを引いた後、音楽室がどうのこうのと言って、さわいでいきました。先生が、大声を出したりして、かいだん話をしてくれました。かいだん話は二つしてくれて、どちらもさい後にわらってしまったものばかりでした。

ホタルとり

四区 木村 雅俊

で、てきばき行動がよくできました。学校では、よくできていたけれど、家での勉強へのとりかかりなどが悪いので、これからの課題としていきたいと思っています。それと、先輩に対しての態度は、とても大切だと思います。ぼくは、男子バレー部に入って、先ばいに、あいさつしたり、いろんなことを手伝ったりしていく中で、先ばい達から大切なことをたくさん教わりました。その教わったことを、これからの生活に生かしたいと思っています。

ファミコン

六区 高木 寿

はたくさんホタルがいきました。ぼくは、びっくりしました。こんなにたくさんいるとは、思っていませんでした。手の中のホタルがひかると、ほかのホタルがよってきました。小さくてすばやいホタルも、地上におちるとおそくなって、つかまえることができて、もう手の中は、ホタルだらけになってしまいました。そして、またもとの所へもどって、つかまえた14匹のうち、11匹をにがしました。さいきん、ホタルの数が増えていくからです。のこった3匹は、うちでかってやりました。

編集後記

社会教育もコミュニティー活動もこれから勉強させていただく身でありますので皆様の御指導をお願いします。

区報は区内の情報紙のみならず子供さんからお年寄りまで投稿をいただき感想や体験など貴重な記録を後の世にとどめおくことも意義あることと思います。区民どなたでもお気軽に投稿をお待ちしております。